

南会津町中荒井地区、水無地区、田部地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 実需者のニーズに合致した秋そばの早期出荷モデルを構築する。

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】そば（R3）79.5ha （R6）81.0ha
- そばは遊休農地を活用して作付け
- 生産したそばは玄そば、そば粉として販売するとともに、自社利用（飲食店）



3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた生産>

- 実需者から新そば早期出荷の要望があったことから、9月中旬から下旬に出荷可能な栽培体型の構築を目指す。

<秋そばの播種の遅れを防ぐため、播種時期を早めた作型を導入>

- 南会津地域における秋そばの一般的な播種時期は、7月6半旬である。しかし、近年（2014年～2023年）7月6半旬の耕耘作業可能日数が減少しており、播種の遅れや湿害が生じている。早期出荷とともに作業期間の拡大を目的として、南会津地域における早期播種作型の適応性を確認する。（7月の半旬別の耕耘作業可能日数の詳細は令和5年度の事例を参照）

4 取組成果

<厳しい播種条件の中で、収量は74.2kg/10aだった>

- 令和6年は、7月の1半旬～3半旬の降水日数が多く、耕耘作業可能日数が少ない年だった。



図 耕耘作業可能日数（令和6年7月）

- 令和6年の収量は74.2kg/10aだった。（令和5年：88.7kg/10a）

表 令和5年と令和6年の収量比較

R6			R5		
播種時期 (月日)	成熟期 (月日)	坪刈収量 (kg/10a)	播種時期 (月日)	成熟期 (月日)	坪刈収量 (kg/10a)
7月14日	9月13日	74.2	6月20日	8月23日	88.7

5 課題（7年度のポイント）

- 令和6年の収量は令和5年と同水準であったが、年次変動の幅を評価するためには、調査を継続する必要がある。品質については、実需者から問題なく製麺できるとの評価を得ているが、品質についても年次変動を把握するため、引き続き評価を求める。